

1 枚目

昭和 50 年代に行われた河川改修工事で、駒生川には 9 個の落差工と呼ばれる小さな段差ができました。小さいものでは、40 cm。大きいものでは 150 cmあるこの落差工は、海と川とを旅するサケやマスの移動を妨げてしまいました。川の上流へと泳ぎ上がれなくなったサケやマスたちは次第にその数を減らし、最終的には駒生川から姿を消してしまいました。

そこで、私たちは、地元産の木材や石を使って手作りの魚道をつくり、魚たちが川の中を自由に泳げるようにしました。

すると、魚たちは次々と落差工を越え、今ではたくさんの魚たちが暮らす駒生川になりました。

2 枚目

しかし、駒生川は市街地を流れる小さな川です。そのため、住民生活に近い駒生川には、たくさんのゴミが落ちています。

こうしたゴミが、生き物たちにどんな影響があるのか気になってきました。

3 枚目

川に捨てられたゴミの大部分は、ビニールやペットボトルなどのプラスチックです。プラスチックは私たちの暮らしになくてはならないものですが、一度、自然の中に入ると分解されません。そして、捨てられた網やビニール袋が、様々な生き物に悪影響を与えていることがわかってきています。皆さんも、クジラのお腹からたくさんのプラスチックが出てきた写真や、網に絡まった水鳥の写真を見たことがあると思います。しかし、このような直接的な影響に加え、プラスチックはさらに厄介なことを引き起こします。

ご存知の通りプラスチックは非常に丈夫なもので、自然の中に入り込むと水にも溶けず、浮きながら水辺を流れていきます。そして、石にぶつかったり、波にもまれることで、どんどん小さくなっていきます。これを、生き物が誤飲するのです。

さらに、問題なのはプラスチックには有害物質が吸着しており、それを摂取することも、大きな問題だと言われています。

このような問題があるプラスチックが、駒生川にどのくらいあるのか？特にマイクロプラスチックがどのくらいあるのか、11 月まで活動で調べてみたいと思っています。